



ZENSOUSEI 21th

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) そうせい第177号平成29年5月発行

# SOUSEI



2017.5 No.177



「特集」

## 東日本大震災七回忌

平成29年3月10日 / 福島県福島市

慰霊復興祈願のつどい

東日本大震災七回忌

各地慰霊法要レポート

平成29年3月11日。東日本大震災から6年、七回忌を迎えました。

私たち全国の青年僧侶は、今できることを自らに問いながら、現地へ足を運び続けました。その中で多くの方がたとのご縁をいただき、時には笑顔で温かく迎えていただいた東北の皆様には、私たちも自然と笑顔になったこともありました。

この6年を共に歩ませていただいた皆様への感謝の思いを胸に、改めて亡くなられた方がたのご冥福を祈り、東北の更なる復興を願います。

そして、私たち全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）が掲げる「笑顔の君と おなじ空を見上げて」を東北の皆様と共に実現すべく、平成29年3月10日、福島県福島市の圓通寺様と福島ルンビニー幼稚園様を会場に「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」を開催いたしました。

全国から青年僧侶が集い、福島の皆様と交流を深めながら、共に笑顔となり空を見上げたこの日の様子をご紹介します。

## 【第1部】

「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」第1部が、午後1時から福島県福島

[特集1]

平成29年3月10日／福島県

# 東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい

市の福島ルンビニー幼稚園様を会場に始まりました。青年僧侶は前日から多くの風船を作り、着ぐるみを着てリハーサルを行い、準備を整え当日を迎えました。

元氣いっぱい多くの園児さんたちがホールに集合すると、出迎えた青年僧侶に興味津津の様子でした。中には愉快地園児を笑わせる僧侶もあり、ホールは笑い声が満ち溢れておりました。

まずは、全曹青の安達会長による挨拶から始まりました。「こんにちは！」「元氣な子〜！」といった声掛けに、園児たちも大きな声で返事をしていました。

その後、青年僧侶が扮する様々な動物が登場する劇『ハチドリのひとつしずく』が行われ、先ほどまで賑やかだった園児たちも、落ち着いて観劇していました。仲良く過ごしていた動物たちが森のある異変に気付き、ハチドリと共に静かな森を取り戻すという内容です。仲良く力を合わせることの大切さを、震災を知らない世代の子どもたちにも分かるよう工夫しました。

続いて、バルーンアートを監修していただいた風船工房MORITTOのお二人もウサギとパンダに扮して登場し、全員で『あいさつのうた』を歌って踊りました。どんなテンポが速くなる曲でしたが、壇上のお二人や動物たちの踊りに合わせ、園児たちも元氣いっぱい、上手に踊っていました。園児たちの熱気に牽引されたように、先生や周りの青年僧侶も一緒に歌い踊り、ホール中に笑顔と熱気がいっぱい溢れていま



た。

ホールでの園児たちと青年僧侶のふれあいイベントが終わると、降園準備の為、園児たちは一端ホールから教室に戻りました。ホールの入り口では動物たちや青年僧侶が笑顔で見送りました。園児たちも着ぐるみを抱きしめたり握手したりと、楽しかった劇やダンスの終わりを惜しんでいました。最後に、園庭で未来への想いが詰まった



風船飛ばしを行いました。園庭の中央には風船で作った特製のお釈迦様が登場し、迎えにきた保護者の方がたと園児たちと青年僧侶がそれぞれ、ほとけさまの塗り絵と願いが付けられた風船を持ちました。

合図と共に一斉に手を放すと、約500個の風船はたくさんさんの願いを乗せて空高く空高く東北の空へと舞い上がりました。風船が遠く見えなくなるまで、園児たちは手



を振っていました。この風船を見上げる笑顔の姿こそ、今期のスローガンである『笑顔の君と おなじ空を見上げて』が現れているなど実感しました。

福島を未来を担う子どもたちと、共に笑い共に空を見上げた「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」第一部は、午後2時20分に無事終了しました。

## 【第2部】

「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」第2部が、午後3時から福島県福島市の圓通寺様境内で開催されました。前日から当日午前にかけて、テント張り、机や椅子の運搬、照明器具の設置等の準備を行い、来場者の皆様をお迎えいたしました。山門から入ると先ず受付を行い、その先では各県青年会から持ち寄られた名産品やお菓子等が無料配布されました。当日のテント順に、

- ・曹洞宗福島県青年会から
- 「甘酒・豆乳甘酒・コーヒ」
- ・山口県曹洞宗青年会から
- 「豆子郎（山口銘菓）」
- ・曹洞宗長野県第一青年会から
- 「ポップコーン」
- ・東北地区曹洞宗青年会連絡協議会から
- 「わたがし・お菓子」
- ・宮城県曹洞宗青年会から
- 「ささかま焼き」
- ・いずも曹洞宗青年会から
- 「いずもそば」
- ・兵庫県第二宗務所青年会から
- 「回転焼き（今川焼き）」
- ・全曹青から
- 「とん汁」

それぞれのテント前には行列が出来、知人・友人同士で立ち話をする姿も多く見ら

れました。第1部の劇に登場した動物たちも境内に登場し、訪れた子どもたちに大人気でした。

また、圓通寺様の境内にある檀信徒会館「ワットホール」内では、曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室から「ビーズブレスレット製作」「喫茶コーナー」、全曹青から「写経体験」を設け、多くの来場者にお楽しみいただきました。前日準備の段階では強風が吹き天気心配されたものの、当日午後は風も収まり雨も降らず、境内は1,000人を超える方が訪れ大いに賑わいました。

引き続き、午後4時過ぎから圓通寺様本堂内で「七回忌速夜法要 祈りの時間」が執り行われました。

大導師を全曹青から安達会長、納経師を東北地区曹洞宗青年会連絡協議会から天野大真会長、2人の検経師を曹洞宗福島県青年会から光英覚法前会長と、山形曹洞宗青年会から深瀬清光会長が務められました。法要の準備や進行は山形曹洞宗青年会の皆様を中心に行われ、真つ暗な堂内に200人を超える参拝者が見守る中、約500本の復興ロウソクに火が灯され、幻想的な雰囲気と静寂に包まれて萬燈供養が厳修されました。

法要が始まり、『仏陀神咒』が繰り返し莊厳に唱えられる中、両班の方がたに経本とご供養される方の戒名の書かれた塔婆が渡されました。それぞれの手により仏様の文字が書き終えられると、塔婆は再び集めら

れ、2人の検経師に手渡されました。検経師は集められた塔婆が間違いなく書かれているかを確かめた後、塔婆は須弥壇上の大導師の手元へ。大導師はこれを捧げ、薫り高さお香によつて薫し清めました。

その後、納経師により中央の塔に塔婆が納められ、4人の導師が塔を囲み深深とお拜をされご供養の『妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈』の読経が始まり、ご参拝の方がたにお焼香をしていただきました。途中からは本堂正面を開け、堂内に入れなかった方がたも正面入り口でお焼香をしていただきました。寒空の中お待ちいただいた方、また小学校が終わつて来場した子どもたちにより、途絶えることなくお焼香が続きました。

萬燈供養終了後、4人の導師は本堂正面から外に出て、先ほどご供養された塔婆の焼却供養が行われました。鼓鉦が鳴り響き、係の青年僧侶が本堂前の参道に設けられた篝火の中に塔婆を差し入れる中、『舍利札文』が繰り返し唱えられました。参列いただいた方がたも気温の下がり始めた寒空の下、全ての塔婆が焼却供養されるまで手を合わせお参りされました。

再び鼓鉦が鳴らされ焼却供養が終わると、大導師を務めた全曹青の安達会長から「東日本大震災から6年、七回忌を迎えました。私たち青年僧侶は発災当時からこれまで行茶活動や炊出しを行ってまいりました。ま



た、これからも震災を忘れる事はありません。今を生きる人、未来を担う子どもたちに『僧侶として何が出来るか』と怯む気持ちもありましたが、声をかけに行つた私たちが逆に温かい声をかけていただき、感謝の念が絶えません。笑顔で同じ空を見上げる事が出来るまで、共に歩んでいきましょう」と参列された皆様に挨拶を述べさせていただきました。最後に、法要で使われたロウソクを参列焼香いただいた方がたへ「無事に過ごせますように」と願いを込め手渡し、萬燈供養を締めくくりました。

午後5時50分頃からは「鎮魂の花火」が打



ち上げられました。花火打ち上げの前には御詠歌が奉詠され、地元で御詠歌を習われている来場者も一緒にお唱えしていました。境内から少し離れた場所準備をされていた地元福島市の(有)菅野煙火店と神奈川県(株)ファイアート神奈川の方がたにより、大きな尺玉や花やスイカの形、また笑顔の形をした花火も打ち上げられました。花火には元来、鎮魂や慰霊の意味を込め打ち上げ

ることがあります。ある人は手を合わせ、子どもたちは大きな歓声と拍手で花火を楽しみ、早春の澄み切った夜空を皆で見上げ、震災で亡くなられた方がたの慰霊と鎮魂を願いました。

徳・真心を、その一つ一つの燈明・花火に捧げ、亡き人が道に迷わぬよう、そして、ご自身が様々な物事を抱え生きてゆく中で「道しるべ」になれば幸いに存じます。

今回の「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」を通して、多くの方とのご縁をいただきました。会場をお貸しいただいた圓通寺様をはじめ、来賓の皆様、ご来場・ご参拝・ご焼香いただいた沢山の皆様。満面の笑顔をくれたルンビニー幼稚園の園児のみんな。優しい笑顔で園児を見守る先生方、保護者の皆様。立派な風船アートを作っていたいただいた笑顔の似合う風船のお兄さんお姉さん。地元の名産品や銘菓を持ち寄って参加いただいた各青年会・協議会の皆様。早春の東北の夜空に鎮魂と笑顔の花火を打ち上げて下さった匠の皆様。また、ご参加・ご協賛いただいた全ての皆様。全ての方がたが平穩に、安らかな日を送ることができよう、ご祈念申し上げます。

文／広報副委員長 西古孝志(第一部)  
 広報副委員長 鬼頭大輝(第二部)  
 撮影・取材／広報委員会一同

# 慰霊復興祈願のつどいを振り返って

山口県曹洞宗青年会会長・清木隆法

『慰霊復興祈願のつどい』、山口県曹洞宗青年会からは9人が参加させていただきました。第1部では、子どもたちと願いを込めた風船を大空へ飛ばしました。子どもたちの笑顔や、私にしてくれた力いっぱいハイタッチ、元気いっぱいの子どもの姿は復興を進めていく原動力だと思います。

第2部会場では、山口銘菓「豆子郎（外郎）」をふるまい、モチリした食感で美味しいと好評をいただきました。連夜法要は厳かに勤められ、参列された方がたの表情から大切な人を感じる気持ちがひしひしと伝わってきました。願いを込めた風船、祈りを捧げた鎮魂の花火、おなじ空を見上げた祈願のつどい。私自身、多くの活力を与えていただきました。みんなの願いと祈りはきっと天に届いていると思います。

いずも曹洞宗青年会会長・糸賀一峰

この度は会員有志4人と当山檀信徒1人の計5人で随喜させていただきました。前日9日から圓通寺様に準備に伺い、私どものご当地食「いずもそば」を振る舞う段取りとなりました。会場も野外、季節もまだ寒い時期ということもあり、地元以外ではあまり見かけない温かい釜揚げそばを作らせていただき、葉味・トッピングにも地元の食材である『野焼き』（カマボコ）や岩ノリを

乗せて、一応に地元感満載の釜揚げそばを提供させていただきました。

当日は多くの方がたにご来場いただき、当会のブースもお寒い中にも拘らず順番待ちの列が途切れることなく、お陰様で大盛況のうちに花火の打ち上げの頃には準備した食材全てを提供いたしました。

曹洞宗長野県第一青年会広報・宮本一暁

『東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい』に事務局並びに有志会員それぞれの思いを胸に参加させていただきました。

当会は参加者の方がたにポップコーンを作り400カップ以上配らせていただきました。幼稚園では、元気いっばいの子どもたちとふれあい、震災後に産まれた子どもたちが既にこんなに成長している、複雑な思いを感じさせられました。堂内では500本以上の灯明の灯りの中、全国の青年僧侶が集まり萬燈供養が厳修され、堂内に響き渡る読経の中、涙し、手を合わせている方がたを目にし、震災の爪跡の深さを改めて感じました。

兵庫県第二宗務所青年会・会員一同

兵庫県第二宗務所青年会(以下、兵二曹青)は昨年、20年の節目を迎えました。阪神淡路大震災を機に発会し、この度「ささえあう」をテーマとした事業の締めくくりとして参

加させていただきました。

全曹青安達会長の掲げられた「笑顔の君と おなじ空を見上げて」。当日、子どもらの手から放たれた思い思いの風船、本堂での七回忌連夜法要、鎮魂の花火。また、各青年会の工夫を凝らしたブース。翌日の石巻市立大川小学校での慰霊法要等に参列させていただきながら多くの方のお顔を見えますと「続けること 受け継ぐことを忘れずに 人と人との間に垣根を作らず つながりを今一度大切に」の兵二曹青歴代会長のお言葉を今一度已に問いかけました。

改めて、今後も様々な活動を通して受け継ぎ続けていくことで、僧侶とは何か、何をすべきかを考えていきたいと、思いを新たにいたしました。

山形曹洞宗青年会会長・深瀬清光

『慰霊復興祈願のつどい』に参加させていただきました。私ども山形曹洞宗青年会は、七回忌法要を担当する事になり、山形に古来より伝わる萬燈供養にてご供養させていただきますました。締め切った法堂の暗闇に灯る復興蠟燭の灯が、供養の塔婆と参拝者、読経する僧侶を照らしたし、厳かな雰囲気の中で、その場の誰もが被災された精霊に想いを寄せました。

震災直後の被災地の風景、その後6年に渡る支援活動、その中で触れあい寄り添い続けた多くの皆様の顔が思い起こされました。被災地と距離は離れていても、これからも同じ想いで同じ空を見あげよう。今度は笑顔になるように。そう誓わせていただきました。



# 共に手を合わすことは 明日を生き抜く力になる

全国曹洞宗青年会会長・安達瑞樹



この度は、多くの皆様のご支援、加盟曹青会様のご協力により「慰霊復興祈願のつどい」が開催できましたこと、会を代表して深く御礼申し上げます。お陰様で全国の青年僧侶150人、第1部・第2部併せて1,500人を超える参加をいただきました。

私はこれまで、何度か行茶活動に参加させていただきましたが、いまだに大切な方を亡くされた方、辛い思いを抱えてこられた方に、どのように声を掛けて良いかわかりません。あの時、一緒に逃げていけば、あの人は助かったはず。あの日の朝、元氣に出かけていった愛する人。夢叶って建てた家が流された方。入学式を控えていたお孫さんの話。これまでの現実を微笑みながらお話される方に、どんな顔で耳を傾ければいいのか。私が笑顔でいることに、慣れることができませんでした。

七回忌という節目を迎えるにあたり、私たちに何ができるかと考えたとき、今を一生懸命に生きる人、未来を担う子どもたちを心から笑顔にしたい。私たちも共に笑顔になりたい。そのために行えることをテーマに、全国の青年僧侶一丸となって企画し、今回の「慰霊復興祈願のつどい」を開催するに至りました。

第1部会場のルンビニー幼稚園の子どもたちは圧倒されるほど元気がよく、大きな夢を携えた向日葵のような笑顔に、私たちも負けじと満面の笑顔を返しました。「みんなの願いが叶いますように！」と声を掛け、大空へ飛んでいく風船に力一杯手を振る姿を見て、私たち大人の責任の重さを感じました。これからの未来を担う子どもたちのためにと企画した内容でしたが、次世代に繋ぐためには、まず、私たちが今をどう生きるかを考えさせられる機会となりました。園庭にある放射線量を継続的に計測するモニタリングポストは、そのためにあるのかもしれませんが、全国の青年僧侶と福島の方がたが交流するために計画した第2部では、各青年会様にブースを設置いただき、行列ができるほどの盛り上がりとなりました。普段の行茶活動で、参加者の地元名産品や手作

りのものを持ち寄ることにより、会話が弾むことを参考に企画しました。各ブースでは、にこやかに言葉を交わし、共に前へ進む思いを共有する機会となりました。山形県曹洞宗青年会の皆様のご協力でお勤めした萬燈供養法要では、祈ることが笑顔に繋がることを身にしみて感じました。共に手を合わすことは、明日を生き抜く力となる。ご尽力いただいた青年会の皆様は、ご自坊に戻られ檀信徒や地域の皆様に今回のことをお話されたことと思います。福島での体験が、また、多くの人びとへ笑顔を届けることができたのではないのでしょうか。

最後に夜空を照らした鎮魂の花火を感動の笑顔で見上げていると、一人の女性の方に「亡くなった母を見送ることができました」と声を掛けていただきました。少しでも亡き人への思いに寄り添い、そして、新しい朝を迎えるお手伝いができたかと思っております。

多くの皆様にご協力いただき、全国のご支援いただいた方がたと、東北の人びとと共に、第21期スローガンである「笑顔の君と おなじ空を見上げて」の通り、大空を見上げ、未来を見つめることができましたこと、会を代表いたしまして多大なるご法愛に深く感謝申し上げます。私たちはこれからも実践を通して研鑽を積み、日日の活動に活かして参ります。今後とも各地災害被災地へ寄り添う活動に、引き続きご理解、ご助力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、この度の開催で会場をお借りし、全面的にご協力いただきました圓通寺吉岡棟憲老師をはじめ、機材をお借りした常圓寺様、曹洞宗宗務庁様、曹洞宗福島県宗務所様、慰霊行事のお忙しい中ご随喜いただいた曹洞宗福島県青年会の皆様、当日、並びに3月11日正當の法要でご配慮いただいた東北地区曹洞宗青年会連絡協議会様、全国からご参集いただいた青年会の皆様には、厚く御礼申し上げます。

平成29年

# 東日本大震災 慰霊法要レポート

[3月10日]

## 宮城県角田市 自照院

午前11時から、自照院様境内の「活動の灯」前で東日本大震災七回忌慰霊法要をお勤めいたしました。

御詠歌のお唱えの中、導師を務める全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）安達会長が活動の灯の前へ。拈香法語の後、全員で『妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈』を誦経。自照院方丈様、梅花講の皆様が進前焼香し、犠牲となられた方がたのご冥福をお祈りいたしました。

文／広報委員長 宮入真道

## 福島県相双地区 慰霊法要

午後1時、相双地区（南相馬市・浪江町）4箇所の慰霊碑の御前で、曹洞宗福島県青年会（以下、曹福青）主催の慰霊法要が、曹福青25人・全曹青2人の随喜の元、厳粛に執り行われました。山の中腹、沿岸沿いの

墓地、道沿いと多くの方のお参りをいただき、空は青空が広がっていましたが、風は冷たく強く複雑な気持ちを抱きながら手を合わせました。

途中立ち寄った浪江町立請戸小学校は、津波の被害で時が止まったようで、下駄箱の扉の向こうにはあの日のまま上履さらしき靴が残っていました。確かに復興が進んではいますが、まだまだ時間が掛かるという印象だけが残りました。

自分の中にあつた風化を少しでも止め、改めて継続させていただくことを慰霊碑の前でお約束させていただきました。

文／支援部事務局長 城市泰紀

[3月11日]

## 福島県伊達市 成林寺

福島県伊達市成林寺様で、東日本大震災七回忌正當慰霊法要並びに復興祈願法要を厳修いたしました。

午後2時40分、納経塔前に全曹青、曹洞宗長野県第一青年会、曹洞宗静岡県第一宗務所青年会、三重県曹洞宗青年会、「cam」おきたま、合計約40人の青年僧侶と成林寺役員の方がたが集いました。

導師は、全曹青会長並びに全日本仏教青年会副理事長である安達瑞樹が務め、午後2時46分に合わせ黙禱を行いました。全国

から寄せられた数多くの写経を納経し、七回忌を迎えた犠牲者の慰霊と被災地の復興を祈願いたしました。続いて、南面して写経用紙のお焚き上げ供養を行いました。

法要後には、成林寺住職久間泰瑞老師から、これまでの献身的な支援に対する感謝と今後変わらぬ支援のお願いがありました。また、震災から6年が経過しても、まだまだ復興は現在進行形であることを忘れてはならないことを力強くお話されました。

震災後、毎年成林寺様での法要に参加しております。今年は幾分暖かく感じましたが、やはり東北の風が肌にしみる寒い中で法要となりました。参加者一同、慰霊と復興支援への気持ちを新たにしながらそれぞれ帰路に着きました。

文／広報副委員長・西古孝志

## 岩手県釜石市 常楽寺

午前11時から岩手県釜石市常楽寺様で藤原育夫住職導師のもと、約180人程が参列される中、東日本大震災休廣忌追悼法要が厳かに行われました。

法要後に藤原師は参列された方がたに「七回忌は休廣忌とも言います。亡くなられた方がたがやっと一人前の仏様になり、多くの仏様に迎えられ歩き始めるときです。皆様も今日をさかいに生きましょ」とお話しされました。

文／広報副委員長・鬼頭大輝



●自照院様法要での焼香



## 岩手県山田町 龍泉寺

午後1時から岩手県山田町龍泉寺様境内の全曹青「活動の灯」前で、全曹青副会長の酒井泰寛が導師を務め、冷たい風が吹く中、東日本大震災慰霊法要が行われました。

引き続き本堂に移動し午後1時30分から龍泉寺住職石ヶ森桂山師が導師を務められ、法要の為に龍泉寺の経本を作り直し、一つの進退を丁寧に行われ、法要中には解りやすく案内を入れるなど、約150人の参列者と共に堂内一体となり合掌低頭を繰り返して、午後2時46分には一同が合掌して犠牲となられた多くの方がたへ追悼の意を表しご冥福を祈り黙禱を捧げ、それぞれの想いを胸に焼香されました。

法要後に石ヶ森師は「皆が一丸となって亡くなった方がたの事を考え、自分一人ではなく一緒にあって想いを寄せてくれる人たちが居る事に感謝をして、仲良く輪を作って笑っている姿こそが仏様にとって一番の供養になります」と参列の方がたにお話され、深々と合掌低頭されました。

次に秋田県鹿角市寶珠寺の岩館裕章老師による法話があり「人は毎日鏡を見て髪を整えるのになぜ心は整えないのか？縁というものには6年前に終わった訳ではなく、亡き人に対しても姿勢を真っ直ぐにして手を合わせて心を整え、見えているものも見えていないものにも全てに幸せを願い、それに応えられるような今日を過ごしてください」とお話され、途中ブレーカーが落ちた際には「少し喋りすぎたかな？もう終りなさいって事です」と堂内が笑いで包まれる場面もありました。

その後、行茶の時間も設けられ、夕方には境内全ての電気を消し灯籠の明かりで過ごす「3・11 あのときのつどい」が開かれました。灯籠には地元の子どもたちや関係者の方がたの気持ちが入められたメッセージと絵が書かれ、灯籠の淡く優しい光で照らし出された幻想的な空間が広がりました。

また、龍泉寺様に設置されているストックヤードから水やお湯だけで炊けるアルファ米を使い、急遽炊出し実演を行い皆様のカレーを食べていただきました。その際「あの時にこのお米があったら」というお言葉に、改めてストックヤードの重

要性に気づき、またカレーの皿が足りなくなった際には「当時は洗った皿なんか使えなかったんだから、この食べ終わった皿を使うから大丈夫だよ」という優しいお言葉に、改めて6年前の震災を絶対に忘れてはいけないと痛感いたしました。

文／広報副委員長・鬼頭大輝

## 宮城県石巻市 旧大川小学校

午後2時30分から、宮城県石巻市旧大川小学校で七回忌慰霊法要が行われました。200人余りの関係者そして宗門の僧侶約70人、その他の宗教関係者30人ほどが集まり厳修されました。

最初に遺族代表の方が挨拶されました。その言葉の中に「普段は仕事などをしながら思いにふけることができないことも多いが、この3月11日は亡くなってしまった故人の方だけを思いながら慰霊したい」「日時がたっても私たちの悲しみの気持ちは癒えることはない」と切実な言葉がありました。

震災があった午後2時46分に石巻市の防災無線が鳴る中、集まった方がたがそれぞれの思いの中、1分間の黙禱をささげた後、大川地区の方丈様を中心に法要が行われ、お焼香していただきました。法要後も多くの人が慰霊碑に手を合わせていました。

慰霊供養はこの先も続いていくことだと思っています。私もこの日の思いを忘れないように手を合わせていきたいと思えました。

文／庶務・本土悠悟



●成林寺様納経塔前の供養

# 精進料理を通し 広がる笑顔の輪

## 福島県で味来食堂開催

平成29年2月20日午前10時から、福島県新地町の雁小屋地区集会所を会場に、精進料理教室「味来食堂（僧食を学ぼう）」が開催され、近隣や新地町社会福祉協議会から18人が参加されました。

下拵えなど1時間弱の調理の後、一旦休憩となり、お茶を飲みながら参加者の皆様や僧侶スタッフの間で色いろな話が弾みました。

休憩後も調理を行い、午後1時前、風呂吹き大根・湯葉サラダ・千枚蕪ずし・セロリの梅肉和え・白菜のすり流し。以上の5品の精進膳が完成しました。



全員で『五観の偈』をお唱えし、頂戴しました。いただいた後には『普回向』をお唱えし、全国曹洞宗青年会から河口教化法式委員長、続いて地元区長さんのご挨拶で、午後1時30分頃解散となりました。

岩手、宮城での開催を経て東北被災三県で最後の開催となった今回。参加者の方々は漫才のような、話し声と笑い声が絶えない賑やかな会となりました。

参加された方からは「笑ったり話したりしながら皆と一緒に食事を作ることが、楽しいことだと改めて感じた」「精進料理のように素材や下拵えに手間と時間を掛ける料理は、大変だけどすごくおいしかった」など、沢山の感想をいただきました。

青年僧侶と参加者、または参加者同士の間で共同作業や会話の中で、それぞれに改めて様々な気付きや感動が生まれたように感じました。

文／広報委員長 宮入真道

# 観音懺法で復興祈願

## 第52回禅のつどい

### 曹洞宗石川県青年会が開催

曹洞宗石川県青年会は3月11日、金沢市永福寺を会場に、「祈りの坐禅、願いの声明（東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌）みんなで、心を込めて。」と題して、第52回禅のつどいを開催いたしました。

午後2時から、参加者とともに坐禅の後、東日本大震災七回忌・熊本地震一周忌法要として石川県青年会・星野正親会長を導師に観音懺法を厳修し、被災地物故者の供養と復興を祈願しました。

宗門でも勤めることが少なくなってきた懺法ですが、当青年会はこの法要へ至るまで毎月ならしを重ねてきました。参加者も普段は聞くことがない声明に触れてみて独特の法要に今までの禅のイメージと違う雰囲気を感じました。

また、東日本大震災以来毎月11日の義援托鉢を、今期の青年会では『いのちの日』と名付け行っております。その際に少しでも「いのち」の尊さを伝えたいという思いから、散華の紙面にそれぞれ会員がひとことと仏教の教えを書いて浄財の志納者へ手渡しました。また、熊本地震では県内各寺院に「義援金箱」を設置し、被災地への復興浄財をお願いしてきました。

被災地から離れた場所で時間の経過とともに忘れられていくことがないよう、参加者と祈り、災害とはその時だけのものではなく、被災された方がたへ継続して何かできることはないか。そんな思いを参加者と共有し、今回の法要を無事円成する事が出来ました。

これまでに集められた浄財は、全国曹洞宗青年会のボランティア基金に納めさせていただきます。このたびの法要に際しまして、東日本大震災、そして熊本地震の1日も早い復興を祈り、報告いたします。

文／曹洞宗石川県青年会 会員一同





## 東日本大震災復興祈願 「福島に笑顔を明日へ向かって」 曹洞宗福島県青年会

平成29年3月15日、郡山市民文化センター1中ホールで、曹洞宗福島県青年会（以下、曹福青）主催「福島に笑顔を明日へ向かって」が開催されました。

午後1時から始まった第1部「東日本大震災七回忌法要・復興祈願法要」では、瀧澤勝俊曹福青会長から来場者へのご挨拶、黙祷、詩の朗読、御詠歌奉詠の後、南相馬市小高区同慶寺御住職の田中徳雲師を導師に、東日本大震災七回忌法要をお勤めしました。『修証義』を行道読誦し、来場者を代

表して2人の方が祭壇前で焼香をされました。

続いて、瀧澤勝俊曹福青会長が導師を務め、復興祈願法要をお勤めしました。『般若心経』読誦の後、随喜寺院全員に十巻ずつ配られた大般若経を転読。『消災妙吉祥陀羅尼』中には、来場者に向け「大般若理趣分」を振り、福島県や東北各地の被災地の復興を祈りました。

午後2時20分から始まった第2部「復興祈願寄席」では、この開催のテーマでもある「福島に笑顔を」の為に落語・漫才が披露されました。最初に開口一番として三遊亭けん玉師匠、次に三遊亭円楽師匠が続いて落語を披露。休憩を挟んで、福島県を中心にテレビ・ラジオで活動するコンビ「母心」による漫才、そして再び三遊亭円楽師匠による落語により、会場は笑いの渦に包まれました。

曹福青の皆さんが福島に笑顔を、その笑顔が明日への力へとなりますようにと準備をされてきたこのイベント。総合司会の大和田新さんが第2部開始前に「あの震災から6年が経ち、色んな話ができるようになった。故郷に帰ると決めた人、帰らないと決めた人。立場の違うそれぞれが、ようやく笑って話せるようになった」というお話をされていたことが印象に残りました。大きな笑い声と笑顔が、福島復興の力の源となることを感じさせる一日となりました。

文／広報委員長 宮入真道

# 全国曹洞宗青年会『傾聴研修会』

協力 中国曹洞宗青年会連絡協議会・四国地区曹洞宗青年会



REPORT  
**全曹青**  
  
ZENSOUSEI 21th

## 自尊心と共有体験学ぶ 傾聴研修会を広島で開催

平成29年2月16日から17日、ホテルサンルート広島で、自尊心と共有体験、支援現場での傾聴の大切さ、相手の思いを知る傾聴を学ぶ目的として、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）主催、中国曹洞宗青年会連絡協議会・四国地区曹洞宗青年会協力による傾聴研修会を開催いたしました。全国から、青年僧侶、寺族を含め61人が参加。講師は、臨床心理士で山陽学園大学教授の近藤卓氏と、観世ふおん相談員が務めました。午後1時から開講式。全曹青の安達瑞樹会長、湯淺英利中国管区理事から挨拶が



あり、その後、講義へと入りました。1日目は「自尊心と共有体験」向き合う関係と並ぶ関係」等の講義を受け、ふりかえりとまとめを行いました。2日目は、「傾聴の基礎」相手の話を聴き、相手の思いを知る」等の講義を受け、ふりかえりとまとめを行い、最後に全曹青の倉島隆行副会長が挨拶をして、研修会を終えました。

2日間、基礎と実践の研修を行いました。誰もが持っている無条件の愛である「生まれてきてよかった」という、基本的自尊心の重要性。体験と感情の共有体験。傾聴活動を行う中で、これらを育んでいくためにも、答えを出すだけではなく、共に歩んでいくことの大切さを実感しました。実践である傾聴ロールプレイ実習では、3人1組になり、「相談者」「聞き手」「観察者」となり、体験の共有、受け手としての幅を広げるために実際の事例を再現する形で、行い、対応の仕方や今の感情はどういったものなのか考えながら取り組んでいました。感情の移り変わり、沈黙にも多くの意味があることに気づかされました。また寺院だけではなく様々な場所での活動を学ぶことができた有意義な研修会となりました。

文／広報委員 井上一洸



## 第22期に向かつて 執行部会・理事会開催 曹洞宗檀信徒会館

平成29年2月9日から10日にかけて、曹洞宗檀信徒会館3階「蘭の間」を会場に、執行部会・理事会が開催されました。

第21期の最後に向けて、中間活動報告の精査が行われた他、3月10日に開催される「東日本大震災七回忌 慰霊復興祈願のつどい」の最終確認、前後の慰霊復興祈願法要・宮城県で開催される国際青年仏教徒交換プログラムへの随喜の最終確認も行われました。また、第22期に向けた報告もあり、円滑な引継ぎとスタートのための準備も本格化してまいりました。

文／広報委員長 宮入真道

# 味来 食堂

## 愛情加えるひと手間が 精進料理の心得

平成29年2月27日午後7時から、曹洞宗檀信徒会館5階「微笑庵」並びに隣接する厨房を会場に、精進料理教室「味来食堂」～僧食を学ぼう～が開催され、男性3人、女性7人の方がたが参加されました。

全国曹洞宗青年会からは河口教化法式委員長、講師として山崎委員、斎藤委員、特別講師として福島県新地町で開催した「味来食堂」でも講師を務めていただいた宮城県曹洞宗青年会の長尾師が参加しました。

最初に河口委員長から、精進料理の心得として基本的な考え方を学んだ後、厨房に移動し実際に参加者にも調理に参加いただきました。今回のメニューは、

- ・ 精進出汁のお吸い物
- ・ かぼちゃ豆腐
- ・ かぶら饅頭
- ・ 焼薄揚げと小松菜のおひたし
- ・ 菜飯

以上の5品でした。まず厨房で行われたの

が精進出汁の味見です。精進出汁の味わいを参加者の方がたは静かに味わっている様子でした。また、講師陣の懇切丁寧な説明に、必死にメモをとったり、撮影したり、時には質問をしたりと、今回も大変熱心な様子でした。講師陣からは、調理のワンポイントアドバイスだけでなく、食材の味を活かし、愛情というひと手間を加えることが精進料理の心得であることなども話され、一般の料理教室とは一線を画す、真剣な学びの場となりました。

出来上がった料理は、この会場の醍醐味であるお膳を準備し、参加者の方がたに手伝ってもらいながら盛りつけました。畳の部屋に座布団とお膳がきれいに配置された様子は、大変印象的でした。配膳後、全員で『五観の偈』をお唱えし、いただきました。

普段なかなか目にするのではないお膳の前に、参加者の方がたは少し緊張気味の様子でした。しかし食事が進むにつれて、料理だけでなく、坐禅や修行の様子など、話が弾んでいました。また、器の扱い方や作法などの話もあり、貴重な良い学びの時間ではなかったかと感じました。

少し終了時間が伸びてしまいましたが、食後には参加者の方がたも率先して器や部屋の後片付けをしていただきました。今回は2年前に恵比寿で開催していた「味来食堂」以来の参加者の方もおられ、この料理教室の関心の高さ、また浸透している様子を実感しました。

文／広報副委員長 西古孝志



総合御寺院用仏具専門店  
株式会社 七福商事  
☎ 0943-32-5103

西日本 丸太屋佛具店 ☎ 0943-32-4036  
東日本 福祿堂佛具店 ☎ 0120-77-2969

ホームページ <http://www.sichifuku.jp>  
本社・工場・展示場 〒834-0111 福岡県八女郡広川町日吉 1407  
関東営業所 〒347-0063 埼玉県加須市久下4丁目 1-2



QRコード



## 平

成29年1月16日午後3時30分から、兵庫県神戸市須磨区の真言宗須磨寺派大本山須磨寺を会場に、全日本仏教会主催、大本山須磨寺・兵庫県仏教会共催による阪神淡路大震災二十三回忌速夜法要が厳修されました。

法要は小峰一允全日本仏教会会長が大本導師を務められ、日本全国から参集した各宗派僧侶の随喜、また平成28年熊本地震で被災された寺院のご住職様方にもご参列をいただき、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）からは、安達会長、大久保全日仏青特別委員会事務局長、村山顧問、松岡19期会長、岩崎20期副会長、丸子全日仏青特別委員が随喜いたしました。また、全日本仏教青年会の米澤智秀顧問（全曹青16期ボランティア委員長）も随喜されました。

阪神・淡路大震災の犠牲者追悼とともに、国内外の諸災害を忘れることなく、次世代へつなげることを参列者全員で祈念申し上げます。

平成29年1月17日明け方には神戸市長田区にある「あわせ地蔵」と「たかとり教会」の二ヶ所で、神戸青年仏教徒会など地元団体が主催された阪神淡路大震災

二十三回忌慰霊法要が厳修されました。

全曹青からは前日からの7人が随喜し、ともに「あわせ地蔵」での法要に参加いたしました。例年と同じく、街頭には子どもたちがメッセージや絵を書きベットボトルを包んだ手作りの灯籠が並べられ、点された幽かな光が夜道を照らしました。発災時刻の5時46分に黙祷の後、法螺貝の吹奏を合図に法要が始まり、『般若心経』『普門品偈』『延命十句観音経』読経の中、参列者全員が「あわせ地蔵」の前に進み焼香し、犠牲者の方がたのご冥福をお祈りいたしました。

法要後、地元の方がたによるぜんざいや豚汁のお振る舞いをいただいた後、徒歩で「たかとり教会」に移動。「あわせ地蔵」と同時刻に開始された慰霊行事は既に終了していましたが、法要後も教会を訪れる方がたとともに、全曹青からの参加者も教会に設けられた祭壇で焼香し、祈りを捧げました。

教会での祈りの後、全員で車に分乗し3キロ弱移動。同区内にある「御蔵北公園」に到着しました。この公園内にある鎮魂の碑は、当時永平寺貫首を務められていた宮崎奕保禅師様の揮毫による「鎮魂」の2文字が刻まれています。

安達会長を導師に、鎮魂の碑前に設けられた祭壇に祈りを捧げ、『大悲心陀羅尼』をお勤めし、全員で供養の焼香をいたしました。

文／広報委員長 宮入真道

## 阪神淡路大震災二十三回忌慰霊法要



# 平

成29年3月9日から12日、全日本仏教青年会（以下、全日仏青）が主催し、東日本大震災七回忌法要と併修して執り行われた、世界仏教徒青年連盟の東アジア国際仏教徒青年交換プログラム『慈悲の実践〜共に歩む仏教〜』（East Asia IBYE、宮城県仙台市）に、宗派を超えてタイ、マレーシア、インドネシア、韓国、バンングラディシユから約250人の僧侶・仏教徒と、日本の僧侶50人が集いました。

全日仏青東海林良昌理事長のもと、9日は全国浄土宗青年会主管で浄土宗大本山増上寺を参拝し、仙台へ移動しました。10日は浄土真宗大谷派徳泉寺で坐禅と朝の勤行。東北大学講義室を会場に「震災時の大学の取り組みについて」を受講しました。仙台国際センターでは全日仏青全国大会に参加し、臨床宗教師の高橋悦堂師ら4人の講義、そして東日本大震災七回忌速夜法要をお勤めいたしました。11日は午前中に荒浜海岸での慰霊法要及び炊き出し、榴岡天満宮参拝、瑞鳳殿拝観。午後は日蓮宗大本山孝勝寺で東日本大震災七回忌法要をお勤めいたしました。

これ以外のプログラムも充実していました。大正大学野村島弘美教授によるアイズブレイクのワークでは参加ユース同士で打ち解け合い、仙台国際センターでの交流会では浄土宗僧侶による二胡の演奏を楽しみ中を心をとつにし、仙台駅

ではグループ行動を楽しみました。清月記迎賓館斎苑の豪華なホールでの閉会式では、各国それぞれの団体の踊り、歌や演芸による文化交流を心の底から楽しめ有意義な時間を共有しました。

私は全日仏青特別委員スタッフとして参加し、通訳を担当させていただきました。わずか4日間でしたが、文化と生活スタイルの違いの中で仏教を信仰している各国の青少年の話や他宗派の僧侶の意見を聞くことはとても新鮮でした。バスの中や食事の際に、偶然隣に座った参加者のことを理解したいという思いそのものが、自分のことを深く見つめ直すきっかけになっていました。そして、それは自分の国の歴史や文化、宗派の教えを客観的な視野で捉え直すことと直結していました。こうした当たり前の積み重ねこそ、我々にそもそも自然と備わっている「慈悲の心」を育んでいく実践そのものではないかと強く思いました。

私に新たなエネルギーと大きな調和を与えてくれたこのプログラムを企画していただいたスタッフの皆様、感謝の気持ちで一杯です。もっと大勢の方が参加できるようお願いしています。そして慈悲の心が広がり、世界中の人が寛大で豊かな考え方をもち、平和で仲良く暮らせる世の中になることを心より願っています。

文／全日仏青特別委員 大山健治

## 2017 東アジア国際仏教徒青年交換プログラム



全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。  
この度ご協力いただき誠に有難うございました。

## 〔 ボランティア基金感謝録 〕

東京都	青松寺	様	愛知県	成福寺	様	愛媛県	大通寺	様	岩手県	長泉寺	様
東京都	天徳院	様	愛知県	広済寺	様	愛媛県	西禅寺	様	岩手県	管生院	様
東京都	大林院	様	愛知県	天徳寺	様	福岡県	大興善寺	様	岩手県	岩手県曹洞宗青年会	様
東京都	正法院	様	岐阜県	勝林寺	様	大分県	羅漢寺	様	青森県	浮木寺	様
東京都	片山秀孝	様	三重県	瑞巖寺	様	佐賀県	正福寺	様	青森県	乗照寺	様
神奈川県	傳心寺	様	三重県	瑞岩寺	様	長野県	香雲寺	様	青森県	正法寺	様
神奈川県	本覚寺	様	三重県	大蓮寺	様	長野県	宗徳寺	様	青森県	大乘寺	様
神奈川県	東照寺	様	三重県	四天王寺	様	長野県	廣正寺	様	山形県	金勝寺	様
茨城県	天徳寺	様	京都府	靖國寺	様	長野県	広徳寺	様	山形県	久保道典	様
茨城県	妙西寺	様	京都府	善光寺	様	長野県	檢校庵	様	秋田県	能持院	様
千葉県	慶林寺	様	京都府	一心院	様	長野県	梅翁院	様	秋田県	陽澤院	様
千葉県	海福寺	様	京都府	(株)芳村	様	福井県	城腰寺	様	北海道	大乘寺	様
千葉県	宝林寺	様	兵庫県	鷺住寺	様	石川県	曹洞宗石川県青年会	様	北海道	孝徳寺	様
山梨県	法久寺	様	兵庫県	谷松寺	様	新潟県	桐盛院	様	北海道	道貫寺	様
静岡県	龍雲寺	様	岡山県	大光寺	様	新潟県	普光寺	様	北海道	正林寺	様
静岡県	福王寺	様	岡山県	円通寺	様	福島県	徳成寺	様	北海道	一心会	様
静岡県	正泉寺	様	広島県	延命寺	様	福島県	龍雲寺	様	北海道	曹洞宗北海道第1宗務所	様
静岡県	高林寺	様	山口県	山口県曹洞宗青年会	様	福島県	頂宣寺	様		第1教区布教師会道心会	様
静岡県	旭傳院	様	島根県	萬松院	様	宮城県	繁昌院	様	北海道	北海道第2宗務所青年会	様
静岡県	保福寺	様	島根県	完全寺	様	宮城県	城皇時	様			
静岡県	元長寺	様	島根県	福知寺	様	宮城県	大永寺	様			
愛知県	乘門寺	様	島根県	永昌寺	様	宮城県	西光院	様			
愛知県	日光寺	様	島根県	雲松寺	様	岩手県	宝積寺	様			

オガサワラノブタカ 様  
全曹青歴代会長様方一同 様

## 〔 七回忌協賛金 〕

東京都	大林院	様	愛知県	賢養院	様	島根県	長壽寺	様	福井県	洞善寺	様
東京都	龍澤寺	様	愛知県	全保寺	様	島根県	葉師寺	様	新潟県	法音寺	様
東京都	泰宗寺	様	愛知県	天桂院	様	島根県	法船寺	様	新潟県	興泉寺	様
東京都	永昌寺	様	愛知県	楞嚴寺	様	島根県	宗淵寺	様	新潟県	新潟県曹洞宗青年会	様
東京都	奥山さと子	様	愛知県	地藏寺	様	島根県	雲松寺	様	福島県	円通寺	様
東京都	嗣永典子	様	愛知県	愛知県第1曹洞宗青年会	様	島根県	洞光寺	様	福島県	弘源寺	様
東京都	小松原トシエ	様	愛知県	東三河曹洞宗青年会	様	島根県	善慶寺	様	福島県	性源寺	様
神奈川県	東照寺	様	愛知県	愛知県第3宗務所青年会	様	島根県	法雲寺	様	福島県	茂林寺	様
神奈川県	正翁寺	様	愛知県	小林律子	様	島根県	安養寺	様	福島県	正法寺	様
神奈川県	(株)ファイアート	様	岐阜県	正宗寺	様	島根県	善慶寺	様	福島県	曹洞宗福島県青年会	様
	神奈川	様	岐阜県	地藏院	様	長崎県	長崎県北曹青会	様	福島県	曹洞宗福島県青年会	様
埼玉県	東光寺	様	三重県	宝泉院	様	佐賀県	医王寺	様		相双支部	様
埼玉県	松林寺	様	三重県	庭岩寺	様	宮崎県	善栖寺	様	福島県	小野寺一恵	様
埼玉県	星野憲子	様	三重県	涼泉寺	様	宮崎県	松崎寺	様	宮城県	清涼寺	様
群馬県	普濟寺	様	京都府	長興寺	様	宮崎県	観音寺	様	宮城県	祥雲寺	様
群馬県	竜昌寺	様	京都府	無学寺	様	宮崎県	宮崎県曹洞宗青年会	様	宮城県	福巖寺	様
栃木県	吉祥院	様	京都府	龍澤寺	様	宮崎県	良泉寺	様	宮城県	西光院	様
茨城県	龍心寺	様	京都府	善光寺	様	長野県	大輪寺	様	宮城県	林香院	様
千葉県	廣壽寺	様	京都府	安達加代	様	長野県	前松寺	様	宮城県	繁昌院	様
山梨県	西方寺	様	京都府	株式会社海老竹	様	長野県	向陽院	様	宮城県	大樹寺	様
山梨県	耕雲院	様	大阪府	南詢寺	様	長野県	興善寺	様	宮城県	玄光庵	様
山梨県	曹洞宗山梨県青年会	様	兵庫県	普藏寺	様	長野県	長谷寺	様	宮城県	澄月寺	様
山梨県	市川大了	様	兵庫県	徳寿寺	様	長野県	龍光院	様	青森県	大乘寺	様
山梨県	(有)小林仏壇	様	兵庫県	琴松寺	様	長野県	長昌寺	様	山形県	東光寺	様
静岡県	栄林寺	様	兵庫県	永澤寺	様	長野県	瀧仙寺	様	山形県	永蓮寺	様
静岡県	正泉寺	様	兵庫県	兵庫県第2宗務所青年会	様	長野県	龍昌院	様	山形県	朝日町商工会議所	様
静岡県	真如寺	様	兵庫県	トータルスペース	様	長野県	東昌寺	様		女性部	様
静岡県	春林院	様		ウイステリア	様	長野県	広明寺	様	秋田県	恩徳寺	様
静岡県	貞善院	様	兵庫県	(有)レディースオート篠山	様	長野県	福泉寺	様	秋田県	鈴木大智	様
静岡県	耕月寺	様	岡山県	済渡寺	様	長野県	長泉寺	様	東北地区	連絡協議会	様
静岡県	元長寺	様	岡山県	岡山県曹洞宗青年会	様	長野県	檢校庵	様	北海道	中村江利子	様
静岡県	創文社印刷株式会社	様	広島県	聖光寺	様	長野県	曹洞宗長野県	様	北海道	潮音寺	様
愛知県	妙瀨寺	様	広島県	善興寺	様		第2宗務所青年会	様	北海道	道貫寺	様
愛知県	報恩寺	様	山口県	徳祥寺	様	長野県	信州玉姫殿グループ	様	北海道	北海道第2宗務所青年会	様
愛知県	寶珠院	様	山口県	昌福寺	様	長野県	有限会社オオタ自動車	様	北海道	曹洞宗北海道	様
愛知県	金清寺	様	山口県	久屋寺	様	長野県	割烹京や	様		第3宗務所青年会 禅友会	様
愛知県	永澤寺	様	鳥取県	吉祥院檀信徒一同	様	長野県	上田温泉 ホテル祥園	様			
愛知県	日光寺	様	島根県	海雲寺	様	長野県	香青軒	様			

# [ 贊助費淨納御芳名簿 ]

平成28年12月19日～平成29年3月31日取扱い分

## ◆東京都

17 龍澤寺 様  
18 大泉寺 様  
54 萬福寺 様  
86 天徳院 様  
70 永昌寺 様  
175 泰宗寺 様  
179 大林院 様  
267 永昌院 様  
311 妙光院 様  
343 向雲寺 様  
345 正法院 様  
374 善福寺 様

## ◆神奈川県第2

1 本覺寺 様  
14 傳心寺 様  
16 正観寺 様  
21 東照寺 様  
83 正翁寺 様

## ◆埼玉県第1

99 常源寺 様  
161 建福寺 様  
166 全龍寺 様  
181 長光寺 様  
434 安養院 様

## ◆埼玉県第2

331 曹源寺 様  
381 松月寺 様

## ◆群馬県

15 天増寺 様  
89 龍昌寺 様  
194 善宗寺 様  
239 普濟寺 様  
272 海雲寺 様  
276 陽雲寺 様

## ◆栃木県

43 東光寺 様  
167 興福寺 様

## ◆茨城県

2 天徳寺 様  
158 妙西寺 様  
182 龍心寺 様  
197 長龍寺 様

## ◆千葉県

8 重俊院 様  
22 廣壽寺 様  
29 慶林寺 様  
35 海福寺 様  
71 東祥寺 様  
95 寶應寺 様  
121 寶林寺 様  
315 雲龍寺 様

## ◆山梨県

162 法久寺 様  
286 広教寺 様

## ◆静岡県第1

2 瑞光寺 様  
7 元長寺 様  
208 延命寺 様  
388 林叟院 様  
401 旭傳院 様  
464 正泉寺 様  
552 貞善院 様

## ◆静岡県第2

228 耕月寺 様  
240 醫王寺 様  
346 東大寺 様  
362 福泉寺 様

## ◆静岡県第3

791 春林院 様  
832 善勝寺 様  
869 龍眠寺 様  
988 福王寺 様  
1208 法雲寺 様

## ◆静岡県第4

1025 龍谷寺 様  
1061 保福寺 様  
1065 高林寺 様

## ◆愛知県第1

7 全香寺 様  
43 広徳寺 様  
76 乘圓寺 様  
82 成福寺 様  
70 慈濟寺 様  
96 全隆寺 様  
101 成福寺 様  
139 祇園寺 様  
144 白毫寺 様  
156 地藏寺 様  
208 日光寺 様  
313 長松寺 様  
341 一心寺 様  
354 廣濟寺 様  
375 春江院 様  
605 天徳寺 様  
635 永澤寺 様  
1124 春日寺 様  
1229 玉林寺 様

## ◆愛知県第2

684 花井寺 様

## ◆愛知県第3

384 慈眼寺 様  
428 寶珠院 様  
431 報恩寺 様  
557 楞嚴寺 様

## ◆岐阜県

28 観音寺 様  
75 地藏院 様  
162 清楽寺 様  
189 久昌寺 様  
219 勝林寺 様  
237 瑞巖寺 様

240 林陽寺 様

## ◆三重県第1

7 海蔵寺 様  
24 一心院 様  
37 四天王寺 様  
39 庭岩寺 様  
83 涼泉寺 様  
144 福源寺 様  
246 寶泉院 様  
269 大蓮寺 様  
276 地藏院 様  
278 大智院 様

## ◆三重県第2

387 瑞岩寺 様

## ◆京都府

4 無学寺 様  
34 神應寺 様  
46 榮春寺 様  
166 龍澤寺 様  
236 善光寺 様  
367 福昌寺 様  
389 萬福寺 様  
402 靖國寺 様

## ◆大阪府

31 正泉寺 様  
69 永興寺 様  
98 吉祥院 様

## ◆奈良県

9 観音寺 様

## ◆兵庫県第1

368 總持院 様  
369 大龍寺 様

## ◆兵庫県第2

121 徳壽寺 様  
173 瑞雲寺 様  
221 永源寺 様

## ◆岡山県

1 圓通寺 様  
3 長川寺 様  
131 濟渡寺 様

## ◆広島県

8 聖光寺 様  
23 阿彌陀寺 様  
46 双照院 様  
62 善興寺 様  
67 西福寺 様  
93 賢忠寺 様  
135 鳳林寺 様  
167 正安寺 様

## ◆山口県

4 寶藏寺 様  
25 弘濟寺 様  
86 興元寺 様  
190 亨徳寺 様

229 妙栄寺 様

## ◆鳥取県

32 吉成寺 様  
82 吉祥院 様  
143 瑞應寺 様  
146 妙楽寺 様

## ◆島根県第1

305 海雲寺 様

## ◆島根県第2

2 永昌寺 様  
50 妙岩寺 様  
54 雲松寺 様  
63 龍覚寺 様  
70 完全寺 様  
135 薬師寺 様  
144 福知寺 様  
178 長壽寺 様  
195 總光寺 様

## ◆愛媛県

36 香林寺 様  
111 大通寺 様  
146 興雲寺 様  
159 寶珠寺 様  
161 善福寺 様

## ◆福岡県

5 妙徳寺 様  
41 崇徳寺 様  
121 大興善寺 様  
158 報恩寺 様

## ◆大分県

87 正福寺 様  
175 羅漢寺 様

## ◆長崎県第1

8 圓福寺 様  
46 洞禪寺 様  
51 祥雲寺 様  
78 宝泉寺 様

## ◆長崎県第3

99 玉泉寺 様  
101 南明寺 様

## ◆佐賀県

238 香雲寺 様

## ◆宮崎県

38 観音寺 様

## ◆長野県第1

139 梅翁院 様  
179 正福寺 様  
243 廣徳寺 様

## ◆長野県第2

389 宗福寺 様  
400 長久寺 様  
419 宗徳寺 様

465 明光寺 様

493 吉祥寺 様  
557 広正寺 様  
566 広明寺 様  
595 檢校庵 様

## ◆福井県

27 龍澤寺 様  
47 瑞祥寺 様  
48 洞雲寺 様  
197 洞源寺 様  
272 洞善寺 様  
283 城腰寺 様  
271 長継寺 様

## ◆石川県

75 大覚寺 様

## ◆富山県

206 慈眼寺 様

## ◆新潟県第1

354 法音寺 様  
368 正通寺 様  
453 龍澤寺 様  
477 龍泉院 様  
500 観泉院 様

## ◆新潟県第3

530 花栄寺 様  
535 普光寺 様  
562 桐盛院 様  
567 楞嚴寺 様

## ◆新潟県第4

9 東陽寺 様  
86 頼勝寺 様

## ◆福島県

2 長楽寺 様  
62 仙林寺 様  
79 西松寺 様  
83 最禪寺 様  
90 明光寺 様  
94 松藏寺 様  
167 澄江寺 様  
175 天澤寺 様  
258 龍昌寺 様  
276 龍雲寺 様  
461 正法寺 様

## ◆宮城県

13 福聚院 様  
16 林香院 様  
47 西光院 様  
69 見松寺 様  
113 繁昌院 様  
141 自照院 様  
212 祥雲寺 様  
293 梅溪寺 様  
319 大永寺 様  
324 光嚴寺 様  
475 城皇寺 様

## ◆岩手県

25 宝積寺 様  
28 聖福寺 様  
43 中興寺 様  
56 地藏寺 様  
83 新仙寺 様  
120 曹生院 様  
256 曹源寺 様  
290 長泉寺 様

## ◆青森県

74 浮木寺 様  
98 東光寺 様  
99 正法寺 様  
100 澄月寺 様  
101 聖福寺 様  
113 正洞院 様  
183 大乘寺 様  
189 乗照寺 様

## ◆山形県第1

81 金勝寺 様  
208 普門寺 様

## ◆山形県第2

272 蓬萊院 様  
315 永泉寺 様  
316 金鐘寺 様  
322 洞松寺 様  
393 館山寺 様

## ◆山形県第3

641 宝泉寺 様  
652 青陽院 様  
722 永蓮寺 様  
734 東光寺 様

## ◆秋田県

17 補陀寺 様  
62 梅林寺 様  
76 藏堅寺 様  
85 寶圓寺 様  
87 慶祥寺 様  
180 龍泉寺 様  
192 善福寺 様  
258 鳳来院 様  
265 倫勝寺 様  
321 鏡得寺 様  
323 恩徳寺 様  
353 安養寺 様

## ◆北海道第1

78 正林寺 様  
257 高台寺 様  
488 清泉寺 様

## ◆北海道第2

165 玉運寺 様  
241 孝徳寺 様  
455 玉法寺 様

## ◆北海道第3

224 禪龍寺 様  
226 大昭寺 様  
331 潮音寺 様  
460 道貫寺 様

# face of 全曹青

## 執行部庶務紹介

第21期全曹青最後の発行となる広報誌『SOUSEI』で最後の「face of 全曹青」を飾るのは、執行部庶務さんのご紹介です。会を安定し運営していく上で、内部の細部とした業務を円滑に行わなくてはなりません。会内業務が滞ればそれだけ会務運営に支障をきたします。そのような組織の雑務を一手に引き受けるのが庶務の仕事となります。具体的には、会議や研修会での出欠の取りまとめ、会場予約から設営、撤収、進行補佐、資料印刷、議事録作成、会議以外でも広告協賛の受付やメンバーリングリストの管理など数多くの仕事を担っています。全曹青設立当時から理念「大衆教化の接点を求めて」が確実に継承されるのは、表舞台には出ず地道に支える庶務のおかげです。まさに「縁の下の力持ち」といった存在です。この誌面を手取る頃には、全

曹青は第22期新体制を迎えていることと思います。見慣れた庶務さんたちの顔を見れなくなるのは寂しいですが、この2年間の経験を活かして活躍される姿を楽しみに21期全曹青卒業です。庶務の皆さん、本当におつかれさまでした。

文/事務局次長 内藤宏信



前田昌鑑  
庶務

今期庶務の配役をいただき、様々な会議や事業に参加させていただきました。一番感じたことは「大衆の威神力」の凄さ、素晴らしさでした。皆様に支えられ2年間務めさせていただきました。ありがとうございます。



武藤大海  
庶務

全曹青は私にとって遠い存在という印象を抱いておりました。その執行部の一員となり活動させていただく中で、全国各地の多くの方との出会いがあり、様々な活動に対する意思や熱意に圧倒される日々でした。

この二年間の有難い仏縁に感謝し、さらなる良縁へと広がるよう精進してまいります。



伊藤秀幸  
庶務

和歌山県曹洞宗青年会から参加させていただいております伊藤秀幸と申します。

20期、21期と引き続き庶務ということで会議が円滑に進む様に精進いたしております。任期も残りわずかですが21期が大円成いたします様に精一杯頑張ります。



竹村義晃  
庶務

初めて全曹青の会議に庶務として参加したとき自分は26歳でした。やっていけるのか心配ばかりでしたが、年齢は関係なくお互いに助け合い自己を磨くことが出来る良い場に思える2年間でした。



本土悠悟  
庶務

私は初めて21期に庶務として全曹青に参加させていただきました。2年間やってみて良かったところは、いろいろな人と出会い、いろいろなところで活動できたところだと思えます。今までより格段に視野が広がったように感じています。2年間で広げた視野を、地元青年会活動や自分の為にこれから使っていこうと思えます。参加させていただいて本当に良かったです。



鷺山晃道  
庶務

全曹青の活気ある会議や様々な研修に参加させていただき、勉強になりました。また、出会った青年僧たちの頑張る姿にも大いに刺激を受けました。ここで経験したことを岡山青年会でも活かしていきたいと思えます。



野田志裕  
庶務

南国宮崎から2期目の参加となりました、庶務の野田でございます。先の『東日本大震災七回忌慰霊復興祈願のつどい』では、たくさんの方の笑顔の子ども達と同じ空を見あげ、改めて全曹青の可能性や繋がりを感しました。

参加させていただいているこの法縁に感謝の念を抱き、青年僧侶の一員として、次なる節目に向かって精進して参りたいと思えます。ありがとうございました。

# 連載 伝え方のデザイン

## 第7回・最終回

### 伝え方のデザイン

曹洞宗八屋山普門寺副住職

吉村昇洋

早いもので、この『伝え方のデザイン』と題した連載も、今回で最終回となる。そこで、最後のタイトルは真正面から「伝え方のデザイン」とし、思うままに語ってみたい。

2017年3月29日付けのハフィントンポストに「親と赤ちゃんの関係、恋人同士に置き換えたマンガ。『ほんとコレですよね!』と大反響」という記事が掲載された。それは、ツイッター上で話題となった「平八(Ⓔ heihachiro83)」さんの投稿を紹介したものののだが、今まさに乳児を抱える私からすると、思わず唖ってしてしまうような内容であった。そこで、ツイッターをやっている方には、この記事を読む前にまず当該マンガを読んでもらいたい。といっても、全員がツイッターをやっているはずもないので、一つ紹介をしておこう。

【場面は彼氏と彼女のやりとり】  
彼氏「号泣しながらおい！ 俺を置いて

彼女「すぐそのトイレ……」

彼氏「号泣しながら俺を放って何してん  
だよ！ かまえよ！」  
彼女「君のメシ作ってるんや」

要は、この彼氏が「赤ちゃん」で、彼女が「母親」を表している。悲しいことに、わたし自身「伝え方」を失敗しているわけだが、マンガをわざわざ文字のみで表現しようとしても、はつきり言っつてこの面白さは伝わらない。

ゆえに、やっぱり当該マンガを読んでもらうに限るのだが、このマンガの何が秀逸であるかという点、自身で経験してみなければ絶対に分からない、乳児を抱える母親の肉体的・精神的しんどさが、全く経験したことのない人でも分かるように表現できているところにある。

ここに、「伝え方」の極意が隠されているとしたらどうだろう。我われ曹洞宗の僧侶は、両大本山なり専門僧堂なりで安居という、ある種特殊な経験を経ており、また一般常識とは異なる文脈となる仏法に身を置く者である。ただでさえ、道元禅師の思想は難解とされることが多く、布教する身としては檀信徒をはじめとする普く人びとにどのように伝えていけばよいか、誰でも悩むところである。

さて、こういう話の流れになると、下記の4つのマトリックスが参考になる。

多くの場合、(3)の「難しいことを分かりやすく噛み砕いて伝える」か(4)の「難しいことは難しいまま伝える」という立場になる

る。ちなみに、(1)は何も考えなくともそのまま伝えれば良く、(2)は権威付けのためわざと堅く表現しようとしているか、単純にうまく表現できずに空回りしているか、本当は易しいのに難しいと勘違いしているといったところだろう。

世の中のニーズとしては、圧倒的に(3)である。多くの人は、難しいイメージのある禅や仏教の思想をできるだけ簡単に知りたいと思っっている。しかし、真に難しいことを分かりやすく噛み砕くということは、その単純化のプロセスの中で、多くのことを

切り捨てるということでもある。当然、元の形からは変異しており、そのものずばりとはいかない。まあ、7割くらいは合っているかなという感じになる。

そうなる、やはり(4)の立場も無視できない。初めから難しいことは前提なので、難しいものとして理解に挑んでもらう。相手にはかなりの時間と労力を費やしてもらったことにはなるが、その分しっかりと伝えることができる。

さて、あなたはどちらの立場を取るだろうか。わたしとしては、(3)と(4)の選択は相手によると思っっている。つまり、相手の状況を見ながら、相手にとって最適な方法をとる。伝える側の思いを優先させて選択するのは自己満足に他ならない。何せ禅は、頭の理解だけではなく、実際の行動をも問題にするので、相手のモチベーションや状況に左右される。

そういう意味で、冒頭の子育てマンガはよくできている。経験が伴わずイメージするのが難しい場合でも、多くの人が今すぐにも体験できる関係性に置き換えることで深い理解に導いているだけでなく、その理解が子育てに関する支援モチベーションを高め、次のステップとして行動に結びつきやすくしている。

具体的な行動に連なる伝え方。これからも参究していきたい。

難しいこと	易しいこと	
(3)	(1)	分かりやすく伝える
(4)	(2)	難しく伝える

# 僧侶の英会話 ～お寺で使えるフレーズ集～ 頒布開始

全国曹洞宗青年会で作成いたしました『僧侶の英会話 ～お寺で使えるフレーズ集～』が、頒布開始となりました。

近年、多くの海外の方が日本を訪れるようになりました。海外の方を寺院にお迎えするにあたり、英会話に自信のない方でも基本的な寺院説明を簡単に出来る、マニュアル本を作成しました。

お出迎えに始まり、本堂内の説明、開山堂や位牌堂、坐禅の仕方など、そしてお見送りまでをどのように英語で対応すればよいのか、時系列に沿って紹介していきます。単に「見せてコミュニケーションを図る」のが目的ではなく、向上心を持って実際に英語を話していただき、より良き国際交流の一助としていただければ幸いです。

先着予約100件までには、曹洞宗宗務庁国際課作成『坐禅読本』を、特典として1件につき1冊進呈いたします。

ご購入の詳細は、全国曹洞宗青年会オンラインショップをご覧ください。

全国曹洞宗青年会オンラインショップ  
<https://shop.sousei.gr.jp/>



書名：僧侶の英会話 ～お寺で使えるフレーズ集～  
 内容：B6サイズ・32ページ(カラー)  
 価格：800円  
 発行：全国曹洞宗青年会

【目次】

1. 基本的な日常表現	8. 墓地と供養
2. お出迎え	9. 坐禅作法
3. お見送り	10. 仏教について
4. 寺院の説明	11. 曹洞宗について
5. 本堂	12. よくある質問と回答例
6. 開山堂と位牌堂	13. 単語集
7. 境内について	

## 編集後記

21期も残りわずかになり、ついに今期最後の号です。前期に続きまたしてもラスト枠を担当するとはなにやら意図的な何かを感じます。

今年は、東日本大震災七回忌、熊本地震一周忌と節目の年に私も青年会を退会する年齢になり一つの節目を迎えます。

全曹青に初めて参加した18期、その後20期21期と計3期全曹青で活動させていただき、地元にいるだけでは出来ないであろうたくさんの経験ができました。

この先の世代でも県の垣根を越えて青年僧侶らしい活動、発言がより良く出来る場所であって欲しいと願います。

文／広報委員・横山岳洋

## ミンナ スマホ デ ツナガル ソウセイ アプリ ソウセイ



全国曹洞宗青年会公式スマートフォンアプリ『アプリソウセイ』を公開しました。

青年僧侶に有益な情報を直接お届けしたいとの思いから開発いたしました。情報の収集や法務に、また青年会員同士の情報共有に是非お役立てください。

iOS App Store、Android Google Playの各公式アプリストアにて無料でダウンロードしていただけます。『アプリソウセイ』で検索してください。

- 行事開催告知などHP『般若』の新着情報
- 災害復興支援部メールマガジンバックナンバー
- 広報誌『SCOUSEI』バックナンバー
- 寺院法要の進退確認に役立つ法要公務帳